



日本株週報 ・ 2026年第39週 (9/21~9/25) ・ 取引日は2日

2営業日で日経平均は2.1%高、TOPIXは0.9%高、グロース250は0.8%安 指数ほど相場は強くない、上げたのは 半導体と銀行

日銀は9月18日、政策金利を1.0%から1.25%に引き上げ、24日から適用した。その後の2営業日で10年国債利回りは3.071%に上昇したが、円は対ドルで1.7%下落し158円81銭で週を終えた。日経平均は2.1%上昇し、東京エレクトロンとアドバンテストがそろって6%超上げた。一方、TOPIXの上昇率は0.9%にとどまり、東証グロース市場250は0.8%下落した。利上げは円を支えず、日経平均を支えたのは半導体株だった。

日経平均株価 +2.1% 終値 66,364.20	TOPIX (東証株価指数) +0.9% 1306 ETF で代替	東証グロース市場250 -0.8% 2516 ETF で代替	10年国債利回り 3.071% +9bp	ドル/円 158.81 週間 +1.7% (円安)
日経平均VI 20.30 週間 -3.93				

01

今週の主役

日経平均がTOPIXを1.2ポイント上回る、差を生んだのは一握りの半導体株

9月21~23日の3連休で、今週の取引日は24日と25日の2日だけだった。日経平均は6万5018円95銭から6万6364円20銭へ1345円(2.1%)上昇し、5日続伸。TOPIXは4091.14から4128.59へと0.9%の上昇にとどまった(財經新聞・18日終値、日経・25日終値)。NT倍率は15.89倍から16.07倍に上昇した。

差の出どころは限られる。東京エレクトロンが6.4%高、アドバンテストが6.1%高、キーエンスが3.9%高で、電機・精密の業種別ETFも3.9%上昇した。日経の市況記事によると、25日は前場中ごろから東エレクトやアドテストが騰勢を強め、指数を押し上げた。日経平均は株価平均型のため、値がさの半導体株の影響はTOPIXでの時価総額比率よりはるかに大きい。

木曜日は両指数の方向が分かれ、日経平均が0.8%高、TOPIXは0.4%安だった。物色が広がったのは金曜日で、プライム市場の値上がりは1118銘柄、値下がりは382銘柄。一方でリクルートHDは5.9%安、任天堂は2.9%安、ソフトバンクグループは2.6%安、東証グロース市場250のETFは0.8%安だった。**今週の日経平均の上昇は、日本株全体の実力を過大に映している。**利上げ後に小型グロース株が弱含むのは、金利上昇で将来のキャッシュフローの割引が重くなるという理屈と整合的だ（推測）。**日銀が0.25%利上げ、それでも円は158円81銭まで下落**

日銀は9月18日の金融政策決定会合で、無担保コールレート（オーバーナイト物）の誘導目標を1.0%から1.25%に引き上げることを賛成7、反対2で決めた。適用は9月24日から。浅田委員と佐藤委員が反対した（日銀公表文）。公表文は、基調的な物価上昇率が2%に近づき上振れリスクがあるとしたうえで、**引き続き政策金利を引き上げていく**との考えを示した。

債券市場はこれを素直に織り込んだ。今週、2年債利回りは9.9bp上昇して1.948%、5年債は11.8bp上昇して2.423%、10年債は9.0bp上昇して3.071%となり、前年末比で100bp高い。

ところが円は買われなかった。ドル円は156円13銭から158円81銭へ上昇し、円は週間で1.7%下落した。背景は米国にある。FRBも9月16日に0.25%の利上げで3.75~4.00%とし（FRB声明）、24日発表の米9月PMIが予想を上回ったことで10月の追加利上げ観測が強まった。円は24日までに8日続落した（日経）。米10年債利回りは週間16bp上昇の5.17%で、日米10年金利差は203bpから210bpに拡大した。両中銀がそろって利上げしても、金利差はなおドル有利に傾く。日銀は円安を物価の押し上げ要因に挙げており、円安が進むほど次の利上げの根拠は強まる（推測）。

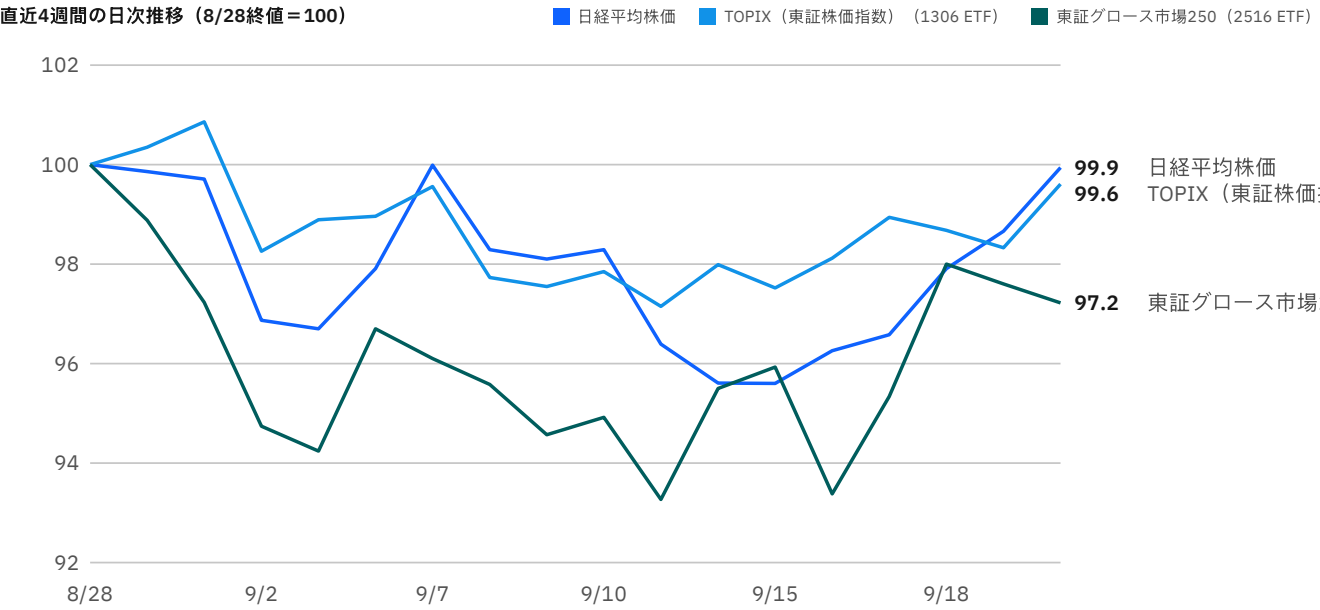
銀行株1.9%高、電力・ガス3.1%安、海外投資家は2週連続の売り越し

金利上昇で業種の明暗が分かれた。銀行の業種別ETFは1.9%高、三菱UFJFGは2.6%高で年初来の上昇率は49%に達した。一方で電力・ガスは3.1%安、金融（除く銀行）は2.5%安、商社・卸売は1.7%安だった。日経によると、25日は中間配当の権利取りの買いも入った。9月末配当の権利付き最終売買日は28日だった。

売り手は誰か。JPXの投資部門別売買状況は9月14~18日の週までしか出ておらず、今週分は未公表だ。同週、海外投資家は6425億円の売り越しで、前週の3037億円に続き2週連続の売り越しとなった（日経）。個人は3117億円、信託銀行は2943億円の売り越し。事業法人は1663億円の買い越しで、過去6週すべて買い越している。自社株買いが中心とみられる（推測）。

円相場が見ているのは日銀の利上げ幅ではなく、日米金利差の向きだ。

勝者と敗者



今週の取引日は9/24、9/25の2日のみのため、期間を4週間に広げた。

指数	週間	1カ月	年初来	終値
日経平均株価	+2.1%	+0.2%	+31.8%	66,364.20
TOPIX (東証株価指数) (1306 ETF)	+0.9%	+0.5%	+20.2%	430.30
JPX日経インデックス400 (1591 ETF)	+0.8%	-0.3%	+20.5%	37,180.00
東証グロース市場250 (2516 ETF)	-0.8%	+2.6%	+20.2%	635.80

ETFと表記した行は指数の代わりにETFを使用 (Yahoo!ファイナンスに指数データがないため)。終値はETFの価格。

TOPIX-17業種の週間騰落

電機・精密 +3.9% 年初来 +33.5%	機械 +2.4% 年初来 +14.7%	銀行 +1.9% 年初来 +48.9%	素材・化学 +1.3% 年初来 +18.1%	鉄鋼・非鉄 +0.8% 年初来 +42.3%	食品 +0.8% 年初来 +15.6%
建設・資材 +0.3% 年初来 +3.6%	不動産 +0.2% 年初来 -7.8%	運輸・物流 +0.2% 年初来 +5.3%	自動車・輸送機 +0.1% 年初来 -4.7%	小売 -0.1% 年初来 -2.2%	医薬品 -0.3% 年初来 +3.5%
エネルギー資源 -0.6% 年初来 +25.0%	情報通信・サービスその他 -1.5% 年初来 +16.0%	商社・卸売 -1.7% 年初来 +20.8%	金融 (除く銀行) -2.5% 年初来 +25.8%	電力・ガス -3.1% 年初来 +8.7%	

NEXT FUNDS TOPIX-17 業種別ETF (1617~1633) で代替。売買の少ないETFは指数と多少乖離することがある。

主力大型株	週間	1カ月	年初来	終値
東京エレクトロン (8035)	+6.4%	+1.8%	+64.7%	11,304円
アドバンテスト (6857)	+6.1%	-4.8%	+73.2%	34,000円
キーエンス (6861)	+3.9%	-2.3%	+40.4%	79,600円
三菱UFJ FG (8306)	+2.6%	+3.8%	+49.0%	3,714円
ファーストリテイリング (9983)	+1.4%	-4.9%	+20.5%	68,620円
ソニーグループ (6758)	+0.4%	-4.3%	-7.8%	3,710円
日立製作所 (6501)	+0.2%	+4.3%	+12.9%	5,536円

主力大型株	週間	1カ月	年初来	終値
トヨタ自動車（7203）	-1.2%	-2.6%	-10.9%	2,990円
三井物産（8031）	-1.7%	+3.6%	+9.2%	5,071円
三菱商事（8058）	-1.8%	+3.0%	+35.5%	4,859円
ソフトバンクグループ（9984）	-2.6%	+19.1%	+39.8%	6,150円
任天堂（7974）	-2.9%	-8.9%	-23.5%	8,100円
株価騰落率（配当は含まない）。				
リクルートHD（6098）	-5.9%	-4.8%	+84.6%	16,335円

TOPIX-17業種では、電機・精密（3.9%高）、機械（2.4%高）、銀行（1.9%高）、素材・化学（1.3%高）が上昇を主導し、電力・ガス（3.1%安）、金融（除く銀行）（2.5%安）、商社・卸売（1.7%安）、情報通信・サービスその他（1.5%安）が下位に沈んだ。17業種中10業種が上昇したが、1%超の上昇は4業種にとどまる。

主力大型株の明暗はさらに大きい。東京エレクトロンとアドバンテストは今週そろって6%超上昇し、年初来ではそれぞれ65%高、73%高。リクルートHDは今週5.9%安だが、年初来では85%高を保つ。トヨタ自動車（1.2%安）とソニーグループ（0.4%高）は蚊帳の外で、トヨタは年初来10.9%安、任天堂は23.6%安。日経平均の年初来上昇率31.8%に対し、TOPIX ETF は20.2%で、差の多くは値がさの半導体・AI関連株によるものとみられる（推測）。

03

金利と円

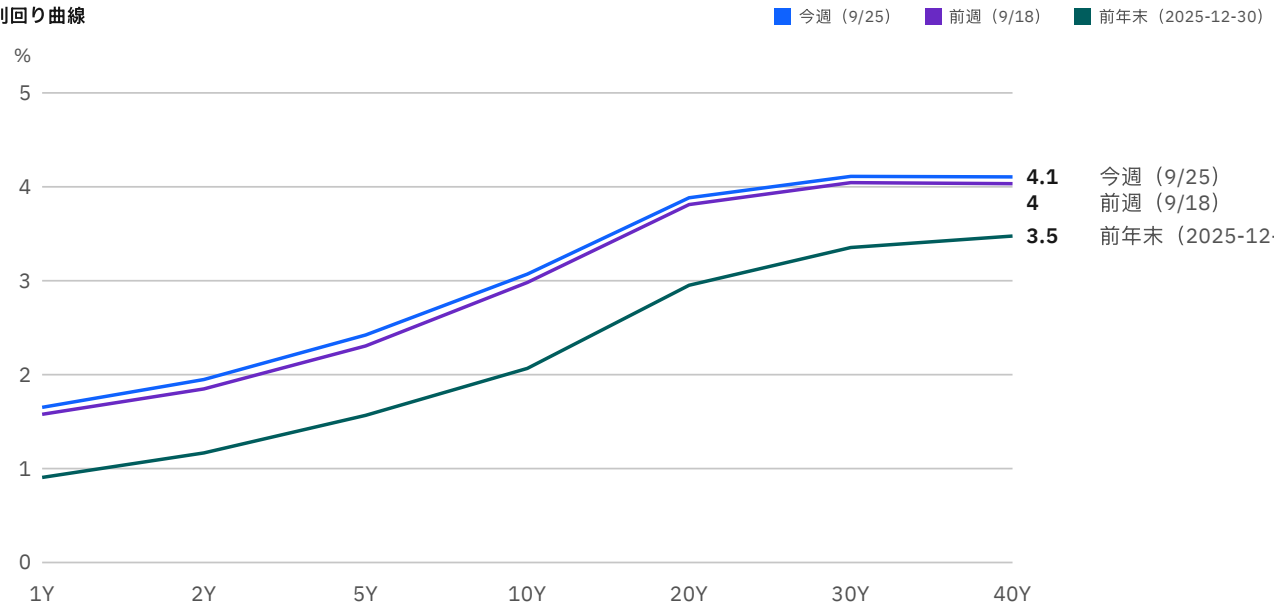
中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
日本銀行	1.25%	9/18 0.25%利上げ（賛成7・反対2）、9/24適用	10/29～30
FRB	3.75～4.00%	9/16 0.25%利上げ（12対0）	10/27～28

日銀とFRBの公表文より。発行時に確認。

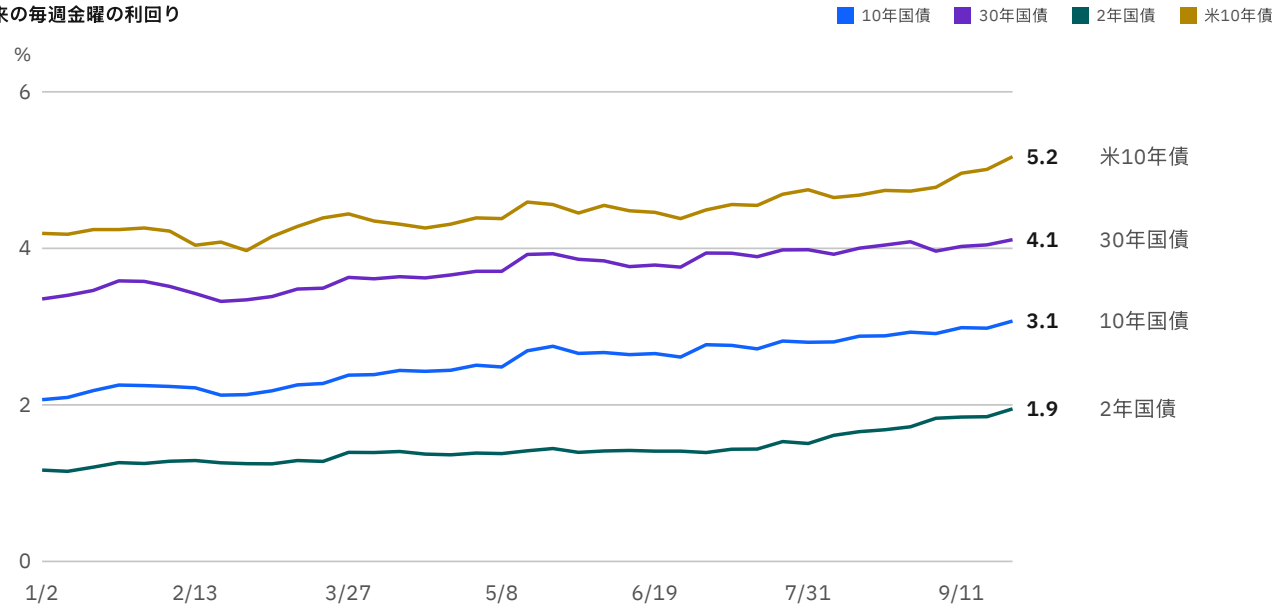
利回り	週末値	週間変化	年初来
2年債	1.948%	+10bp	+78bp
5年債	2.423%	+12bp	+86bp
10年債	3.071%	+9bp	+100bp
30年債	4.112%	+7bp	+76bp
米10年債	5.17%	+16bp	－
日米10年金利差	210bp	+7bp	－

日本国債：財務省公表の国債金利（2026-09-18～2026-09-25）、年初来の基準は2025-12-30。米国債：FRED。

国債利回り曲線



年初来の毎週金曜の利回り



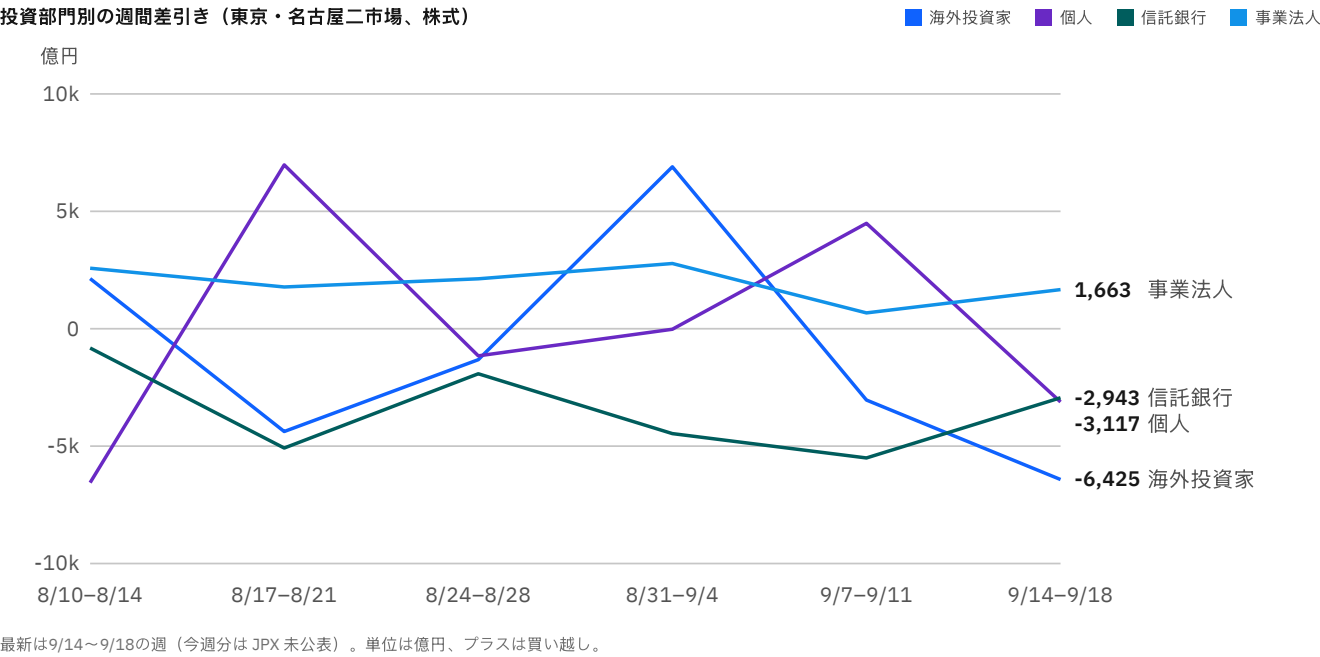
為替	週末値	週間変化	円の週間騰落	円の年初来
ドル/円	158.81	+1.7%	-1.7%	-1.5%
ユーロ/円	180.64	+0.8%	-0.8%	+1.7%
人民元/円	23.66	+1.6%	-1.6%	-5.5%

レートの上昇は円安。「円」の列は各通貨に対する円の騰落で、プラスは円高。Yahoo!ファイナンスの日次終値。

利回り曲線はベアフラット化した。2年債と5年債の上昇幅（9.9bp、11.8bp）が30年債（6.8bp）を上回り、市場は追加利上げを織り込みつつある。10年債は3.071%で前年末比100bp高、30年債は4.112%。

円は3通貨すべてに対して下落した。対ドルで1.7%、対人民元で1.6%、対ユーロで0.8%の円安。株式市場に緊張感はなく、日経平均VIは24.2から20.3に低下した。次回会合は日銀が10月29～30日、FRBが10月27～28日と、いずれも月末。円の方角はその間の米雇用・物価指標次第になる（推測）。

投資部門別の売買



週	海外投資家	個人	信託銀行	事業法人
8/10-8/14	+2,135億円	-6,558億円	-824億円	+2,578億円
8/17-8/21	-4,378億円	+6,978億円	-5,083億円	+1,778億円
8/24-8/28	-1,319億円	-1,156億円	-1,916億円	+2,125億円
8/31-9/4	+6,893億円	-19億円	-4,469億円	+2,780億円
9/7-9/11	-3,037億円	+4,491億円	-5,507億円	+674億円
9/14-9/18	-6,425億円	-3,117億円	-2,943億円	+1,663億円

出典：JPX「投資部門別 株式売買状況」（週間、二市場計、買い-売り）。海外投資家は法人・個人の合計、個人は現金・信用の合計。

過去6週間で、海外投資家は買い越し3週、売り越し3週で、差し引き6131億円の売り越し。直近2週は連続の売り越しだ。信託銀行は6週すべて売り越しで合計2兆742億円。株高局面で年金が資産配分を戻すための株式売りともみられる（推測）。事業法人は6週すべて買い越しで合計1兆1597億円。個人は売り買いが交錯し、6週合計ではほぼ均衡（619億円の買い越し）。今週（9月24～25日）分は例年どおりなら10月1日ごろ公表される。

05 当社カバーの日本株

銘柄	当社レーティング	週間	対日経平均	年初来
三井物産（8031）	レポート近日公開	-1.7%	-3.8%	+9.2%

三井物産は今週1.7%安で、日経平均を3.8ポイント下回った。三菱商事（1.8%安）とともに下落率の上位に並び、商社・卸売業種も1.7%安だった。年初来では三井物産が9.2%高で、三菱商事の35.5%高に大きく後れを取る。三井物産のレポートは近日公開予定で、レーティングはその際に示す。ここでは判断を控える。

来週の注目点

日付	イベント	注目点
9/30	9月末の四半期末、多くの日本企業で上期末	29日に中間配当の権利落ちを迎え、先週の権利取りの買いは一巡する
10/1	日銀短観（9月調査）8時50分、9月会合の「主な意見」も同時公表	QUICK 集計の予測中央値は大企業製造業 DI がプラス25（6月はプラス15）
10/2	米9月雇用統計（21時30分）、朝8時30分には東京都区部9月 CPI	FRB が10月に追加利上げするかは雇用と物価次第。ブルームバーグは利上げを予想
10/8	FOMC 議事要旨（9月会合分、3時）	10月の追加利上げがどこまで具体的に議論されたかが、日米金利差に大きく影響
10/8	ファーストリテイリング本決算、日銀「地域経済報告（さくらレポート）」	ファストリは日経平均への影響度が大きく、決算は指数を動かす。
10/9	安川電機の上期決算	国内決算シーズンの先陣で、産業用ロボットと設備投資の先行指標

時刻は日本時間。

計算方法と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 - 1（2026-09-21～2026-09-25）。配当落ち調整をしない終値（株価の騰落のみ）。今週は9/21, 9/22, 9/23が休場で、取引日は2日。

株価・為替は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）。同サイトにない指数は ETF で代替：TOPIX（東証株価指数）→ NEXT FUNDS TOPIX 連動型上場投信（1306）、JPX日経インデックス400 → NEXT FUNDS JPX日経インデックス400連動型（1591）、東証グロース市場250 → 東証グロース市場250指数連動型 ETF（2516）。業種は NEXT FUNDS TOPIX-17 業種別 ETF。

国債利回りは財務省「国債金利情報」（日次）、米10年債は FRED。

投資部門別売買は JPX「投資部門別 株式売買状況」（週間、二市場計）で、通常は翌週第4営業日に公表。

日銀と FRB の政策金利・会合日程は両中銀の公表文より。

今週の引用：

- 日本銀行「金融市場調節方針の変更について」（2026年9月18日）
- FRB・FOMC 声明（2026年9月16日）
- 日経「日経平均5日続伸、終値は6万6364円」（2026年9月25日）
- 日経・市況（半導体株と権利取りの買い、2026年9月25日）
- 財経新聞・18日の市況（日銀利上げ通過で6万5000円回復、2026年9月18日）
- 日経「円相場、8日続落 一時158円台半ば」（2026年9月24日）
- 日経「海外投資家が2週連続売り越し 6425億円」（2026年9月29日）
- JPX「投資部門別売買状況」
- 財務省「国債金利情報」
- 日経・9月短観予測（2026年9月29日）
- 日本銀行・公表予定、FRB・会合日程、米労働統計局・公表予定
- ファーストリテイリング IR カレンダー、安川電機・決算発表予定日
- ブルームバーグ・米9月雇用統計の予想（2026年9月26日）

本週報は公開市場データに基づくリサーチの記録で、すべての読者に向けたものです。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言ではありません。データには遅延があり、原資料が優先されます。

データ時点 2026-09-25・雅虎财经（行情、汇率）；財務省（日本国債收益率）；JPX（投資者类别买卖）；FRED（美債收益率）；日銀、美联储公告

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/jp-weekly-2026-w39 · 2026-09-30 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。